

桐鈴凜々

「10年という月日」

前工房とんとん管理者 星野淳子



第101号
平成27年5月15日発行
発行責任者
社会福祉法人 桐鈴会
理事長 黒岩秩子
南魚沼市浦佐 5142-1
電話 025-780-4118
FAX 025-777-3731
e-mail
info@toureikai.com
<http://www.toureikai.com/>

退職をするにあたり、たくさん
の関係者の皆様及び桐鈴会の
職員の皆様に深く御礼申し上げ
ます。

平成16年の中越地震の真つ
ただ中に、桐の花が開所しまし
た。職員3人を除いて、介護職
未経験の方ばかりでした。この
メンバーで「終の棲家」を目指
そうというのですから、緊張感
は半端ではありませんでした。
細やかな心のこもったケアを
行うには、3人の経験者だけで
はできません。それぞれの時間
帯を担う職員には「少しでも心
配な事があつたら、いつでもい
いから電話してね。」と携帯電話

をフル活用し、当時の計画作成
担当者として2人で職員教育に当
りました。

10年が経過し、萌気園の黒岩
先生や訪問看護師の協力を得な
がら、1名(注)の利用者以外は
すべて穏やかにお看取りできま
した。桐の花10周年記念式の日
に、ご遺族の方がわざわざ「あ
の時は大変だったけど、良い時
を一緒に過ごさせてもらえ、本
当に感謝しています。」とご挨拶
にみえ、介護冥利に尽きると涙
が出るほどうれしかったです。
その後は、障がい者支援に異
動となり、グループホームひま
わり、工房とんとん、ケアホー

桐鈴会の理念

・終のすみかを目指す
・「迷惑をかけ合える関係」を目指す
・高齢者、しようがいしや、子どもたちが
安心して住める地域を創ろう



ムおひさまのオープンに関わら
せて頂きました。ちょうど法律
の変わる時でもあり、利用者の
皆さんと毎日を過ごすだけで精
一杯でした。南魚沼福祉会の関
係機関の皆さんからは、とても
力になって頂き、本当に助かり
ました。

工房とんとんの立ち上げでは、
利用者さんがなかなか集まらず、

本当に苦労しました。パンの製
造から始まり、販売促進と経営
面での心配がありました。また
三障がいの知識を得ながら、利
用者さんの支援をどのように行
うか。これまた毎日必死でし
た。お陰様で2年が経過する中
で、やつととんとんらしい就労
継続支援B型、生活介護として
軌道に乗り始めました。



野澤優さんと大の仲よし、星野淳子さん

利用者の皆さんや職員と一
緒にすることは得意でしたが、
管理者としての能力には疑問も
感じておりましたので、私の役
目もここまでと、職を辞させて
頂きました。力不足で皆様に
多々ご迷惑をおかけしたことを
お詫びさせて頂きまして、退職
のご挨拶と致します。10年間、
支えて頂きました皆さんの皆
様に、深く御礼申し上げます。
(注)ご家族の都合により、近
くの特養に移ったため。

新年度に寄せて

桐鈴会理事長 黒岩 秩子

桐鈴会の職場が、4月にこんなに変化をしたのは、今年が初めてのことだと思います。グループホーム（GH）桐の花管理者が、関和香子に、工房とん管理人が、森山里子に、GHひまわりとおひさまの管理者に小林裕子が着任しました。それぞれの新管理者も、その下で働く職員もいろいろな戸惑いがあるかと思えます。それでも新しい体制を皆さんの力で作り上げて行っていたきたいと念じています。

また、桐鈴会の役員もたくさんの方が引退されました。なるべく大勢の方にご支援いただきたいので、役員をしてくださる方を探し続けていくつもりです。適任という方を知っておられる方は、どうか提案をしてくださいませ。

そして、全国の皆さん方、桐鈴会を資金面で応援していただきたく、桐鈴会後援会を下記のように発足させます。年会費が

1口2000円（団体会員は1口10000円）というものです。6月から、発足させます。どうか、ご協力のほど、よろしくお願ひします。

新管理者挨拶



ケアホームおひさま
グループホームひまわり

管理者 小林裕子

4月から、ケアハウス鈴懸から異動になり、ケアホームおひさま、グループホームひまわりで管理者をしています。3月に3回目の産休、育休を終え、1年ぶりの仕事復帰です。いきなりの、重役に肩の荷がどっしり重いですが、森山里子前管理者がすぐ隣にいてくれるので、心強い！また、経験豊富な世話人さんたち、若さとしつかりさを兼ね備えた富永支援員、何より利用者さんたちは同世代の方も多く、困った時には何でも教えてもらって何とか1ヶ月が過ぎました。（管理者の仕事どころか、雑巾の場所から全部教えてもらわないといけないのですから）

桐鈴会後援会 設立のお知らせ

いつも桐鈴会を応援していただきありがとうございます。ごさいす。

皆さまのご支援やご意見をより反映できるようにこの度後援会を発足しました。高齢者、障がい者、子どもたちが安心して住める地域を創るため、より一層努力いたしますのでご協力をよろしくお願ひします。

個人会員 1口 2,000円

法人・団体会員 1口 10,000円

1. 手数料無料の振込み用紙をお届けします。

会員希望の方は下記までお問い合わせ下さい。

〒949-7302

新潟県南魚沼市浦佐5142-1

(福) 桐鈴会 ケアハウス鈴懸

TEL 025-780-4118

FAX 025-777-3731

メルアド suzukake@toureikai.com

担当 鈴木 智子

2. 口座へ直接送金する場合

振込み先 郵便局 口座番号 00580-1-102206

※振込額から手数料を差し引いて振り込んで下さい。

まだまだ勉強中で管理者らしいことは何一つできていませんが、入居者の皆さんが楽しく、自分らしく暮らしていけるよう、職員の皆さんが楽しく仕事ができるよう、私を管理者に任命した理事長が後悔しないよう、私にできることを探していきたいと思ひます。よろしくお願ひ致します。

グループホーム桐の花

管理者 関 和香子

計画作成担当者として動き始めて1年というところに、今年

3月糸山前管理者の退職。更に、開設当初の星野管理者も法人を退職するというまさかの事態。桐鈴会に就職して10年が過ぎ、職員の異動や退職に気が付くと桐の花では私が一番の古株になってしまい、管理者を引き継ぐことになり…。1ヶ月が経ちましたが、不安で気持ちばかり焦る毎日です。

看取りの施設という事もあり、現在利用者の方は重度化しています。

もし介助が必要じゃなかったら、どう過ごしていたか？今、

何を望んでいるのか？居心地良く、その人らしく暮らせる環境づくりを大切にしたいと思えます。

ご家族の方、職員、関係機関の方の力をお借りしながら、出来る事を考え取り組んでいこうと思つています。どうぞこれからも宜しくお願いいたします。

久しぶりの「とんとん」

工房とんとん管理者

森山里子

前管理者星野淳子さんの退職に伴つてまたとんとんに舞い戻ってきました。

2年前の春、工房とんとんの開設を目指して私はパン作りに明け暮れていました。素人でもパン屋ができるのかどうかという挑戦でした。毎朝7時からパンを焼き、そのうちカフェで人生初のウエイトレスもするようになりました。ところが半年ほど遅れて11月にオープンすることになったケアホームおひさまに思うように職員が集まらず、半年でとんとんからおひさまに移ることになってしまったのです。生活も朝型から夜型に変わ

り、1年5カ月ほどどっぷりとケアホームおひさまとグループホームひまわりの生活に浸っていました。

その1年5カ月の間にとんとんも大きく変化しています。利用者もほぼ定員に近いほどになつてきました。カフェも少しずつお客様が増えて来ていて嬉しいことです。パンも店売りだけでなく、外販も多くなつてきました。狭い生活介護の部屋には車いすの人が多くなつてきています。

先日久しぶりにパン班に入つて成形の手伝いをしてみました。パン作りの大方は良く覚えていませんでしたが、パン生地の触感がたまらなく懐かしく嬉しいひと時でした。昼休みにはカフェでレジの交替要員もしています。レジの細かいことも忘れてしまつて戸惑うことが多いですが、少しずつ記憶がよみがえつてきます。パン班が人手不足の時にはパン販売にも行きます。キューピット大和さんの店先をお借りしてパンを販売しています（毎週土曜日10:30〜無くなり次第終了）。

そんな間を縫つての事務がまたなにより大変です。新年度なのでなにかと事務も多い時期でもあります。バタバタしているうちにあつという間に一日が終わつてしまう新米管理者の毎日です。

定員わずか20人の中に就労継続B型と生活介護の二つの事業があり、B型ではパンとカフェと厨房、小物作りと仕事の種類が多く、他の就労支援施設と比べ、利用者の人数の割に職員数が多く、利用者もまだ定員を満たしていないため、運営もなかなか大変です。

利用者さんが増えて運営が安定し、カフェがお客様で賑わい、利用者さんが主体になつて作つたパンや布製品等がどんどん売店で売れていく…。当初描いていた夢が一日も早く実現できるよう、なんとかもうひと頑張りしていきたいと思つていますので、よろしくお願いします。



退職職員
くお世話になりました

◆グループホーム桐の花

「大変お世話になりました」

前グループホーム桐の花

管理者 糸山和子



グループホーム桐の花の職員として、2年足らずではありましたが、かけがえのない時を過ごさせていただきましたことを心より感謝申し上げます。

様々な問題、与えられた課題に一つ一つ愚直に取り組んだつもりですが、果たしてどれ程のことをやり遂げたのかと問うてみれば、ただ振り出しに戻っただけだったように思います。

物事に向かうとき「どうするか」という問いにだけ答えていては、一向に解決へは向かいません。「どうあらんとするか」、自らの意思をもってどこに向かうのか、何を願ひ、何を目指して歩むのか、そう問う心を見失つてはならないと教えられました。桐鈴会にはすばらしい理念があります。それを見失うこと

なく職種を超えて響働し社会福祉に貢献していただきたいと思います。素晴らしい環境の下で働かせていただき、本当にありがとうございました。

◆ケアホームおひさま



世話人 塩野谷陽一

おひさまが開設されてからの宿直であり、私にとっては不安の日々。学ぶことは多く研修会や職員会議・夏祭りも良い思い出です。これまで支えていただき感謝しています。

新任職員

〜よろしくお願ひします〜

◆鈴懸おはようヘルプ



訪問介護員

駒形幸江



南魚沼市に来て20年。介護職に就いて22年目の春です。趣味は熱狂的な高校野球ファンで各球場へ出設します。

美味しい物を食べに行ったり、料理を作るのが大好きです。

訪問介護員（登録）

小幡道代

4月から登録ヘルパーや宿直員として勤務することになりました。これからも何かとお世話になります。気持ち新たに頑張りますので、引き続きよろしくお願ひ致します。
（前、鈴懸おはようヘルプサ―ビス提供責任者。3月末退職、4月より現職）



◆グループホーム桐の花

計画作成担当者 小川明子

桐の花に来て1年が経ちました。まだ戸惑いも多い中で、計画作成を担当することになりました。利用者のご家族の皆さんの安心と笑顔を目指します。



介護員

上村恒子

何事も初めての事ばかりで

すが、職員の皆さんに助けってもらいながら日々頑張っています。これからも一生懸命、入居者の皆さんと仲良く頑張ります。

介護員

高橋陽子



桐の花は玄関が広く、木の床。犬がいて、何とも温かい雰囲気です。私は夜勤専従者として、入居者の皆さんと穏やかな夜を過ごしたいです。

◆工房とんとん



看護師

阿部あさ子

施設の仕事は初めてで、戸惑うばかりの4カ月の新米？です。利用者、職員の皆さんに支えられています。

看護師

高橋計子



この4月から、週に1回ほど勤務することになりました。1日も早く皆様の顔と名前を覚え、笑顔で楽しく過ごせたらと思っています。

工房とんとんNEWS

カフェ・ランチ・パンの店



今回より工房とんとん「すずカフェ able」の最新NEWSを毎回お知らせします。

○営業時間変更のお知らせ

10時～16時30分まで
（ラストオーダーは16時）

○かき氷始めました！

いちご、
ブルーハワイ、
マンゴー 各200円





まあちゃん、そう呼ばせてね。

あなたへの感謝の言葉を葬儀の時間にお送りできなかったことを悔やんでいます。私は、あなたとさっちゃんに対して、深く深く感謝しています。何しろ、初めてであった障がいを持つ子どもでしたから。そして、私を「この道」に導いてくださった大切な方々だからです。

それまでの私はごく普通の教育ママでした。6歳になってから浦佐保育所に入ってきてくれて、私が担任になりました。自分の子どもと同じように「教えよう」としました。色、数、その他いろいろ。一生懸命教えるところが覚えてくれるのです。ところが翌日になると忘れていきます。そんな時の私の対応は、今思うと恥ずかしい限りです。そのことをちゃんと私に気づかせてくれたのは、あなたたちでした。朝、保育所に来て、私の姿を見るとくるっと後ろを向い

て逃げていくようになってしまいました。どうしよう？どうしよう？ 考えて考えて、私が出した結論は、「今、この方々の体の中には、これを覚えるためのタンクがいっぱいになっていない」と思うことでした。そしてよくわかったことは、楽しいことがあれば、それを伝えていくこととして言葉が育っていく、ということでした。



元気だった正和さん。氷川きよしを歌いました

私がそのように変わっていったら、あなた方もすっかりなついてくれ、私の家に泊まりに来るようにもなってきました。まあちゃん、あなたはとっても明るくてひょうきんな子どもでした。保育所でもよくみんなを

笑わせてくれましたね。うれしい時の表現は、ちよつと前傾姿勢で、走り回ることでした。そんなまあちゃんの姿は、ご両親からの愛をたくさん受けて育ってきている姿でした。

「迷惑をかけるな」という言葉がどんなに残酷な言葉であるかを教えてくれたのもあなたたちでした。「迷惑をかけあおう」という標語ができたのもあなたたちのおかげ。桐鈴会の理念の中に「迷惑をかけあえる関係をめざして」と入れ込みましたよ。

それから、「人を測る物差し」についても考えてしまいました。ごく常識的な目盛がついた物差しで測ったら、「価値がない」と言わざるを得ないそんな物差しについて、目盛を変え、結果を考えた結果、「人を測る物差しなんかはない。そもそも人を測ろうとすること自体が傲慢」という結論を得たのでした。

私の長女長男と一緒に浦佐小学校に入ってから、担任の関矢先生の配慮もあってクラスの人気者でした。先生の膝の上で、授業を受けていたりしましたね。

3年になるとき、高田の養護学校に行ってしまったてさびしくなりましたが、手紙をよく書いてくれました。去年、その1枚が出てきて、とてもきれいな字で、たくさんの漢字が使っていた。実にしっかりと手紙でした。

とんとんの職員たちに読んでもらいました。週末の帰宅をお迎えなしでやれるようになって、一人で行き来していました。そんなまあちゃんは、中学では生徒会長だったのでは？ そして卒業式では、答辞を読んだんですよね。卒業してから、また浦佐の住人になってくれて、1990年に私が開いた「大地塾」に毎週土曜日に来てくれていました。ドライブが大好きでしたね。スキー場の頂上とか、スカイラインとか、いろいろ行きましたね。

30歳ぐらいの時に、大分県にある「なかまの家」を見学に行きました。その時飛行機に乗るのがうれしくて、羽田飛行場を走り回って、飛行場のスタップをあわてさせましたが、一緒に行った「ともに育つ会」の私たちはそんなまあちゃんの姿をと

でもうれしく眺めていました。その後、抗てんかん薬の副作用で、腸の動きが悪くなって、腸閉塞、腸ねん転、を繰り返して何回も入院しましたね。とうとう去年の春には、大腸全部と小腸の一部を切除してしまいました。

2年前にできた工房とんとんに毎日嬉しそうにできてくれていたのですが、腸の手術のあとは、大変でしたね。栄養分を吸収することが難しくなりました。2月12日（木）工房とんとんから帰って、具合が悪くなって翌13日萌気園浦佐診療所に入院。15日午前中に行ったら、手を出血してくれて、握手をし「目が回った」と話してくれました。でももう全く栄養分を吸収できなくなっていて、「先生が帰りたかったら帰ってもいいって」と言ってお父さんが泣き崩れておられました。夕方5時に胸騒ぎがして尋ねると目を見開いたまま手を差し伸べてくれ、その手を握ってしばらくすると、苦しそうな息づかいになり「肩呼吸」とお父さんが言われると2回で

それが止まってしまいました。大きな目を見開いたまま、看護師さんが、人工呼吸をしてくださったけど、呼吸が戻ることはなかったのです。5時20分でした。

先日、映画《おくりびと》の原作者（と言っではいけないかしら？）で「納棺夫日記」の著者青木新門さんが、夢草堂で私たち関係者に講演をしてくださいました。その中で、「生と死の堺のところでは、光が見えるようです」と言っておられました。東日本大震災の被災者の皆さんにお話しする機会があって、「皆さんは、がれきを見て地獄のように思われたと思いますが、亡くなった方々は、光を見てとても幸せになっていかれたんですよ」とお話ししたら、喜んでおられた、とおっしゃっていました。私の手を握ったまま、まあちゃんはきつと光を見たのではないかと想像しました。大きく目を見開いたまま、ただ心臓が止まっただけ、という感じだったのです。生と死の堺はそんなにはつきりしたものではないと思えてしまいました。

まあちゃんが大好きだったイナおばあちゃんといまごろ何を話しているのでしょうか。



（注）最近、障がい者虐待防止法で、「ちやんや君で呼ぶことだけでも虐待」と言われているようですが、私にとっては、いつでも「まあちゃんときつちゃん」であり続けていて、「本人たちもそれを許してくれていました」。

自主学習会「聴くということ」に参加して

ケアホームおひさま
グループホームひまわり



管理者 小林裕子

（理事長のメールより抜粋）「元校長だったという男性（野澤憲之輔さん）が、私に会いたいと言って家に現れたのです。入ってくるなりこう言いました。『私は大和中学の不登校対策をしています。私は学校に戻ることが出口だとは思っていません』。私の『ヘンテコおばさんと子どもたち』を読んで、『私はこの頃、なんのために生きているのかと考えています。青臭いとか言われながら。でもこの本

を読んで、そんなことを考えるヒントが少しつかめたような気がしました。常識ってなんだろうって。この出会いから、桐鈴会の評議員を引き受けていただき、施設案内していたとき、おひさまの森山管理者と『カウンセリングの勉強』を月1回行うことが決まっていました」



野澤憲之輔さんからの質問に考え込む

4月9日第1回目の勉強会が行われました。桐鈴会の役員が4名、役員の息子さんが1名、職員が7名集まりました。時間になっても先生が現れません。電話をかけてもつながりません。そこで、参加者で自己紹介をして待つことになりました。「ピア（当事者同士）カウンセリングに興味があって、

「大学で心理学の勉強をしていて」、「地域の中に入り込んでいくようなソーシャルワーカーを目指して」、「不登校の親の会、発達障がい親の会をやっている」などなど、皆さんの参加の趣旨を話し合っていました。そこへ30分遅れで先生が登場。「今日の日を楽しくにしている、早く家を出過ぎたので、他に寄っていたら遅くなってしまう」との言い訳でした。おかげで、みなさんと自己紹介ができました。

テーブルを囲んでの勉強会がスタートです。勉強会の「きくということ」の「きく」はどの漢字を使うか？耳十目十心Ⅱ「聴く」。耳で目で心できくのだそうです。

私が自分から話さない（話せない）方にはどうしても、質問したり、誘導尋問みたいな会話になつてしまふ、と話しました。聴くということは会話することか？沈黙も会話ではないか？沈黙にたえることは聴く側の大きな仕事。話す人も沈黙にたえているのか？それでもないのではないか？先生が一つ私たちに質問をしました。みんな黙っていました。「はい、今の沈黙は何秒だったでしょうか？」20

秒より短いと思う人の手が多くあがりました。実はちょうど20秒でした。「皆さんが短く感じたということがあるのでしょうか」と先生。（普通ならもつと長く感じる人が多いので、先生はおもしろいといつたのでしょうか？）では、なぜ皆が黙っていたか？「考えていた」から。

質問は相手を規制する。相手の方向付けをしてしまう。相手を不自由にしてしまう。イエスカノーカを求めてしまう質問は相手の言葉・気持ちを聴いていない。

凛々98号でも紹介した井口健彦さんの母がとんとんでは話ができるようになって暴れなくなったのに、家では前とかわらず暴れていると発言しました。それに対し、健彦さんの弟の昂さんが、「わかってもらえないから暴れている」と言いました。先生は「わかってもらえない。だけど、暴れることができる」と言いました。

今回のテーマは「沈黙」ということに決まり、第1回目は終了しました。先生が「この勉強会は私の方が得る物が大きくなりそうですね」と言つて帰っていきました。



「ホテルでランチ」

工房とん生活支援員

高橋知子



工房とんでは早春の3月20日、カフェと厨房、パン工房を特別に臨時休業させて頂き、とても素敵な企画を実施しました。浦佐駅前のホテルオカベへみんなでコース料理のランチを頂きに行つて来たのです。メインディッシュは肉料理か魚料理の2種類があり、事前にどちらがよいか皆さんの希望を取っていました。どっちにした？とメンバーさんに聞くと、「肉です！」と答えた人が多く、それも満面の笑みで答えてくれて、誰もが心待ちにしているんだなあと感じました。たまには利用者と



「おいしそう！」だけど緊張する…

職員が一緒に楽しめることができたらいいなと思っていたので、もちろん私もとても楽しみでした。当日はホテルの送迎バスと乗用車に分乗し、12・30出発。ホテルに着くと何人ものスタッフさん達が最上の笑顔で出迎えて下さいました。会場は2階の結婚披露宴ができる広いホール。円卓がたくさん並び、すでに一般のお客様が何組もお食事されていました。とんとんの私たちは奥の5つの円卓に案内され、思い思いの席に着きました。私は、理事長、紳士の井口龍哉さん、若い大平あけみさん、井口陽さん、とびきり若い杉山みどりさん、かおるさん姉妹と一緒にテーブルに座りました。きれいなウエイトレスさんが、肉か魚か、パンかライスか、そして飲物のオーダーを取ってくれました。若い女性たちは心なしか緊張した面持ち。

最初に出てきたのは「シーフードマリネガトー仕立て」。とてもおしゃやれで美味しい前菜が、コース料理の最初の楽しみです。スープは「ユリ根のポタージュ」。大変優しいお味でした。そしてパンとサラダが配られました。お腹が空い

ているので、パンをどんどん食べてしまった人もいますが、メインディッシュはこれからです。肉料理は「ビーフストロガノフ」。魚料理は「アトランティックサーモンソテー」マスタートドソース添え」。

どちらも野菜を添えて、おしゃれな盛り付けです。お料理を堪能した後は嬉しいデザート。大きなお皿に「桜色パンナコッタ、ブラウニー、バナアイスフルーツ盛り合わせ」が春色に彩られて、これまた実におしゃれで美味しいのです。いつものまにかみんなの表情もにこやかになっていきます。美味しいものを頂くってなんて幸せなんでしょうね。

生活介護のメンバーさんのテーブルの方を時々見ていましたが、いつもは大きな声を出したり、動き回ったり活発に活動するメンバーさんとても静かに席についています。慣れないところに来て緊張しているのかな。でもここはい子にしていたほうがいいって分かるのかも知れません。もし我慢できなくなったら別室をお借りしようかと準備していたようですが、その必要もなくお料理も完食だったとか。もちろん車椅子のメンバ

ーさんもお料理を堪能して下さいました。日頃の生活介護班の献身的な介護と熱意の賜物だと思いましたが。

とんとのみんなが一緒に楽しめたのは、本当に嬉しいことでした。コース料理も日頃なかなか頂くことがありませんから、良い経験になりました。また来たいねと思わず笑顔になりました。ホテルオカベ様の心配りも随所に感じられて、ありがたいことです。幸せな一日に感謝、感謝です。

平成26年度 寄付者、融資者、ボランティアの皆様

ご支援ご協力ありがとうございました。

〇ご寄付いただいた皆様
(寄付順・敬称略)

北川志げ子
南魚沼障害者福祉後援会
曾田蕭子
ゆきぐにメディックス



〇ボランティアの皆様
(五十音順・敬称略)

- 畔上秋代 関ハツエ
- 阿部佐知子 関光弘
- 井口美賀 関雪江
- 池田豊美 高橋歩
- 石田茂晴ご家族 多聞青年団
- 市川竹安 天王町盆踊りの会
- 浦佐こども園 戸田聡
- 浦佐小学校 ともしび会
- 5、6年生 中沢勇士夫
- 榎本宗俊 南雲美智子父子
- 大崎太鼓クラブ 行方ヒロ
- 小尾アキ 行方弘子
- 勝又昇 昇工務店
- 金子清美 羽賀則子
- 上村綾香 林幸英
- 上村清吉 林晴美
- 黒田瑞江 坂西行子
- 桑原和美 毘龍剣勇会
- 国際情報高校 広田セツ子
- 近藤貴子 深田よしひろご夫妻
- 笹岡里香 星 澄子
- 佐藤剛 星ひろみ
- 佐藤三津江 星野真由美
- 佐藤良子 宮内清香
- 志太珠美 森山佳代子
- 清水昭博 山田太一
- 尺八の会 やまと設備
- 関正太郎 大和中学校



編集後記

長い冬を乗り越えた新緑が一斉に顔を出し、生命力あふれる季節となりました◆新年度を迎え、浦佐の土地に5月には「JAめぐりぱーく八色」、6月には「魚沼基幹病院」がオープンします。静かであった浦佐地域にも活気が生まれつつあります◆「石の上にも3年」。工房とんが開設してから3年目を迎えています◆最初は何かもが手探りで職員や利用者と一緒に積み重ねて今まで歩んできました◆改めて振り返ってみたとき、みな「声」を大切にしてきたことに気づきました◆音声として発せられる声、目で訴えかける声、身振り手振りであらう声など様々です◆それを可能としたのは職員や利用者、そしてご家族も一緒に互いを思いやる関係を持てたからかなと感じています◆理事長の「迷惑をかけあおう」まではまだ、心と身体が追いつきませんが、当法人の誇るべき「人を大切にできる気持ち」を胸に秘め、さあ！今年もこの新緑のように力強く前に進みたいと思えます！

(若井美由紀)